

網走ほんりゅう組

第415号
網走教職員組合
〒090-0836
北海道北見市東三輪1丁目83-35
TEL0157(31)7551
FAX 0157(31)7559
11月25日



授業実践から学び合う

十一月五日(土)、北見西小において、第三九回まなびバが開催されました。今回のまなびバは、支部代表者会議のあとに実施したため時間が短かったのですが、全道合研の還流と実践交流の二つのテーマで交流を行いました。参加者は六名と少なめでしたが、未組織の先生の参加もあり、充実した話し合いができました。

①全道合研還流

今回の全道合研に参加したのは、大坪先生と丸尾先生の二名でした。今回のまなびバに参加した大坪先生から、参加した分科会等について報告がありました。

テーマ討論は「豊かな学びをつくるために」に参加し、学力偏重の今、何を大切に授業づくりを行っていくべきかということについて話し合われました。その中で、最近の授業で「教師の問いから子どもたちが答えを出すまでの時間が短くなっているのではないか」ということが話題のぼりました。学力テストに学校が振り回され、じっくりと答えを出すという経験ができなくなっている今だからこそ、私たちは、試行錯誤しながら答えにたどり着くことを大切にした授業づくりを目指していく必要があるという意見が交流されました。また、教科書の内容についても、見直し、研究していくことが大切であることが語られました。

分科会は、「子ども、父母参加の学校づくり」に参加し、レポートでは、「共に学び、共に生きる学校へ」という北見西小学校の研修についての報告を行いました。困難を抱えた子どもたちが増えてきたことで、授業やその他の活動が成立しにくくなっている状況から、研修の内容を「特別支援教育への理解や実践力を深める」とし、特別支援教育について、学校全体で学んでいるという様子が報告されました。また、分科会の様子も報告され、参加者は、高校の実践の話も聞くことができました。

②実践交流

参加者は少ない「まなびバ」でしたが、レポートは五本も出され、内容の濃い意見交流ができました。今回は、未組織の先生もレポートを持って来てくださり、参加した感想も寄せていただいたので、ご紹介します。

学びたい人が学ぶ場が「まなびバ」

網走教組の「まなびバ」に今回も参加させていただきました。未組織である私にも声をかけてくださり、ありがたい限りです。意欲的に学ばれている方々の空気に触れる機会をいただけ、いつも感謝しています。管制による研修とは違い、目に力があり、言葉に力がこもっていることが「まなびバ」の良さです。また、若い人もベテランも車座になり平等に意見を言いあう雰囲気があるのも魅力です。

この「まなびバ」に参加しているのも思うことは、突き詰めていて考えた時に、それぞれの立場を超えて一致することがあるということだと思います。三十五人学級、学力偏重主義、道徳教科化などの教育問題がいつのまにか政治的な問題にすり替えられ語られる昨今。このように教育問題については是非々々で考える「まなびバ」の活動が広がっていき、たくさんの方々の先生方の「まなびバ」になっていってください。

この感想にもあるように、いろいろな立場の人たちが、気兼ねなく思ったことを語り合える「まなびバ」は、網走教組の運動の中でも、ずっと大切にしていきたいものの一つです。これからも、息の長い取り組みにしたいです。先生方が集まりやすい「まなびバ」を創り上げていきたいと思います。



教育全国署名

網走教組では、今年度の全国教育署名を取り組むに当たり、1000筆の目標を設定しました。この間、網走教組のスタート集会や各支部での独自の取り組み、或いは高教組との合同の取り組み、また、道退教の力も借り、署名活動を進めてきました。そして、網走教組の最終集約日の11月25日、1450筆の署名が集まり、目標のほぼ1.5倍の署名を集めることができました(北見441筆、網走290筆、遠軽・紋別330筆、道退教304筆)。

このあと道教組の締め切りが12月6日(土)となっています。これから集まってきた署名がありましたら、本部の方まで送ってください。

- ・北海道提出集会 12月10日(水) 予定
- ・全国集約集会 12月12日(金) 予定

今年も目標1000筆達成!

賃金確定交渉終了

先生方を励ます賃金を

十一月十八日、第三回賃金確定教育長交渉が終わりました。交渉結果については各支部で会議を開き、学習していることだと思えます。現場の思いを踏みにじる回答にため息しかでませんでした。人事委員会勧告通りの給与引き上げ実施ということで、明るい報道がされましたが、今後も道独自削減の実施継続、給与制度の総合的見直し、現給保障制度については継続交渉ということで、決して展望は明るくありません。

私たち教員は子どもたちのすこやかな成長のために、長時間勤務もいとわず、教育実践を進めています。真面目に子ども達と向き合い、給料が減らされたからといって仕事量を減らしたり、加減をしないで終わらせようという人はいないので、読書環境を整えるために学級文庫を自分で用意しているなど、教育活動に対する自分の身を削っています。そういう教師のやる気や理想を逆手に取り、勤務実態と合わないような給与体系を取る道教委には怒りを通り越し、もはやあきらめるばかりです。子どもたちを励ますためにも我々自身が励まされるようなよりよい給与制度が実施されることを願います。これからは運動をしていきましょう。

また、子どもたちの変容とよりよい成長をもとに要求を語れるように、教育内容の学習研鑽と毎日の実践を進めていきたいと思います。